

- ・参考資料 家下川新聞 no. 4
- ・昨年度、豊橋河川事務所が実施した合流部の矢板カット。やや水量の多い雨後は、このように水が流れている。(1面中段写真参照)
- ・調査によって確認された魚は、以下の通り。(2面下段写真参照)
 - コイ、フナ、アユ、メダカ、オイカワ、スジシマドジョウ、モツゴ、ゴクラクハゼ、ナマズ、カワヨシノボリ、タモロコ、ライギョ、カダヤシ、ブルーギル、タイリクバラタナゴ、
- ・今回採れなかったが、他にいる魚を参考までに。(以上15種)
 - コウライモロコ、ウナギ、ニゴイ、カワムツ、ゼゼラなど。

*気がついたこと

- 種類はまあまあいたが、魚の数が非常に少ない。これは以外だった。
- 矢板の上流部で、ヨシノボリ、ゴクラクハゼ、テナガエビが、数は少ないが捕獲できた。
 - ・・・景観のことはさておき、とりあえず、魚は矢板の切れ目を上がっている。
- 大規模な遡上は矢板が水没するほどの大雨のときに行われる。矢作川の河床が下がり、水位が上がらなくなってきた現在、また今後、魚は上っていけるのか、大雨のときに確認したい。

2, 第4回 魚のすむ水路を作ろう計画 越冬マスかいぼり調査の結果

- ・参考資料 家下川新聞 no. 3 (一昨年の1号マスでの結果)
- ・H25年12月1日、2号マスの調査結果。

グループ	種名	個体数	2号マス H25年 割合	1号マス H23年 割合	
オイカワ類	オイカワ	1342	41.9	2.8	*
モロコ類	コウライモロコ	609	19.0	35.5	*
	タモロコ	159	5.0	2.5	
	モツゴ	58	1.8	20.1	*
コイ/フナ類	コイ	17	0.5	8.3	
	フナ	240	7.5	13.8	
タナゴ類	タイリクバラタナゴ	381	11.9	14.2	外
ドジョウ類	ドジョウ	2	0.1	0.1	
	東海小型スジシマドジョウ	36	1.1	1.2	絶
カマツカ類	カマツカ	13	0.4	0.2	
	ゼゼラ	5	0.2	—	
	ニゴイ	1	0.0	1.2	
メダカ類	メダカ	334	10.4	0.3	絶 *
	カダヤシ	9	0.3	—	外 *
	カワヨシノボリ	—	—	0.0	
	ウナギ	—	—	0.0	
	ナマズ	—	—	0.1	
	オオクチバス	—	—	0.1	外

個体総数 3206匹

種類数 14

- *調査方法（調査時間は2時間。調査は2手に分かれ、捕獲時間（運動量）をきめて5R行った）
 - ・5回の獲総時間は105秒。このマスを利用する魚がいかに多いか分かる。
 - ・前回のウナギ、ナマズが採れなかったのは、しつこく探らなかったから。

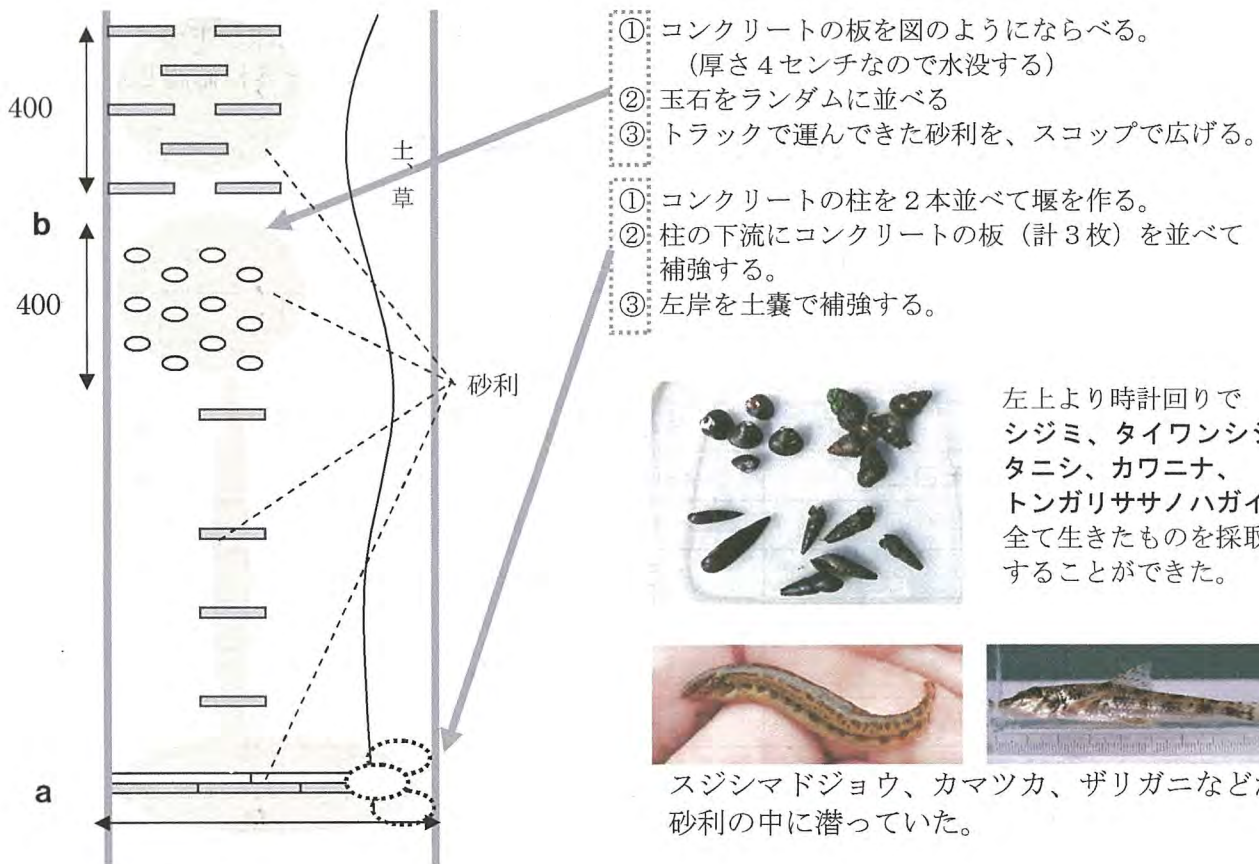
*気がついたこと

- ・予想以上にタナゴが多いのは、貝の定着が理由か？
- ・メダカとカダヤシ 圧倒的に優位に立つカダヤシが少ないのは興味深い。

- *疑問 年間を通してみると、このマスを使うのは圧倒的に寒い時期だ。夏場はほとんど利用していない。しかし、その数があまりに少なすぎる。ひょっとして、水温の上がりすぎ、泥から発するガスによる酸欠か？今年夏は、水の酸素濃度を調べたい。

3. その他

- ・砂利場の設置・・・昨年、敷いた砂利の様子。



・草の植え付け、

4年前に植えた草は大きく成長。エビ類のほか小さな虫、水棲昆虫も増えた。当然、魚も爆発的に増えたのだが、大水で草が株ごと流れ、堰を作ってしまった。草は大きくなるほど浮力があり、今のままでは定着させるのが難しそうだ。

撤去作業時（秋）の水深は1m。水もきれいで大量の魚がいきいきと泳いでいた。

4. 家下川リバーキーパーズのやれたらいいな

1. 現活動の延長として、50～100mでもコンクリートがすべて剥がせたらいいな。
2. 水路へ下りる階段ができたらいいな。
3. 今回の発見で、日本初のカダヤシ駆除ができるかも。
4. 承水溝の貯水池の浚渫ができたらいいな。（深みを作ることで、生物の数が激増する）
5. さらに石組の漁礁が作れないものかな。
6. コンクリート水路に草を定着させるよい方法を見つけないかな。



コンクリート水路に
ちよつぱり手を加え、小魚
などの生きものが棲みやす

くする作業を、昨年11月18
日に豊田市上郷地区の榊塚
西町にある農業排水路で

行った。参加者は
約70人。地元に住
民・団体・企業
他、国・県・市の
行政マンも多数参
加するという全国
でも珍しい取組み
だ。今回で4年目
になる。

上郷地区を流れる
家下川とその周
辺水路を含む水域
一帯は、昔から小
魚の種類が多いこ
とで知られている。
ただ、川や水路の
管理者が国交
省・愛知県・豊田市・豊田
土地改良区と細かく分かれ
ており、そのことで生き物
が暮らし難くなっている面
がある。

家下川新聞は
広告を募集しています
yashitagawa.rk@gmail.com



を好む小魚を増やす新たな
試みだ。作業はコンクリ
ート水路の所々にブロックを
列べ、砂利を入れるという
簡単なもの。ブロックを置
くのは流れに変化をつける
と同時に、砂利が流れない
ようにするためだ。

身近な川に感激
寿恵野小学校教諭
鈴木秀吾
この活動に参加して、こ
の水系の生物の豊かさに驚
くとともに、調査研究や工
事・管理に携わる方々が、
一堂に会していることに感
激。川を管理する側の大人
が安全に動く、そこに本物
のエネルギーを感じました。
私は子どもたちと参加し
たのですが、これらの作業
は、学校のピオトープの参
考にでき、作業の達成感も
味わうことができました。
温かい豚汁、ササノハガ
イの観察、生きもの探し。
子どもたちは飽きることな
く川につかっています。
そんな彼らのバケツの中
には、かわいいドジョウやキ
レイなタナゴたち。魚にも
「川ガキ」にも、見とれる
一日になりました。

コンクリート水路に砂底 地元・国・県・市の70人が作業



NO.02
2013年(H25)2月
発行・問い合わせ
家下川リバーキーパース
Yashitagawa.rk@gmail.com

- 目次
- ② コンクリートでは
生きられない
砂底が好きな魚たち
家下川が、ふるさとになる
ぼんつく博物館
 - ③ 生き物図鑑、本気で調査隊
 - ④

水棲生物の調査・イベントは
株式会社 とと・PLANNING
生物観察、それに属するイベントなど、
是非、ご連絡ください！
ピオトープの計画、維持などのご相談にもります。
担当：市川 Ichikawa@totopla.com

親切・安心・丁寧なサービス
お客様とともに創造する良質なこだわり
planning
designing
printing
...for all customers
KAMIGO 株式会社上郷印刷
〒470-1218 豊田市上郷町2丁目23-12
TEL(0565)21-0203(代) FAX(0565)21-2253

こんなのがいました！ 家下川には、いろんな魚がいるんだよ

家下川の 生きもの図鑑

川底に潜む魚たち。

魚は草の陰や石の下だけでなく、
川底の砂の中にもひっそりと隠れて
います。今回は、そんな砂地をター
ゲットにタモを入れてみました。

【梅本佳紀】



カマツカ

砂によく潜ることから、スナモ、
スナモグリと呼ばれます。エサは砂
ごと口に入れ、エラから砂だけを器
用に吐き出します。



スジシマドジョウ(東海型)

シマドジョウに似ていますが、か
なり小柄で、産卵期、オスの模様は
スジ状に変化します。藻類や水生昆
虫などを食べます。



コウライモロコ

目が大きく、口ひげをたくわえ、
スマートな体つきをしています。家
下川には、これに似たデメモロコも
生息しています。

Check! 外来生物

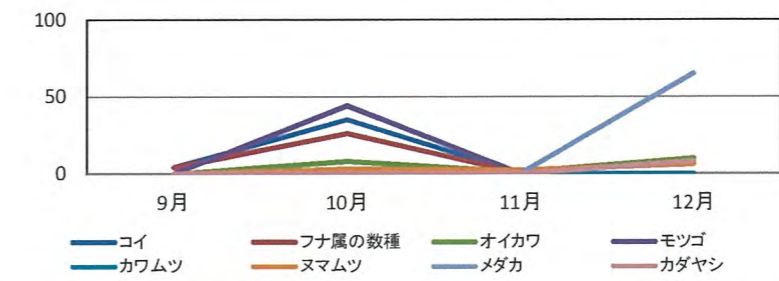
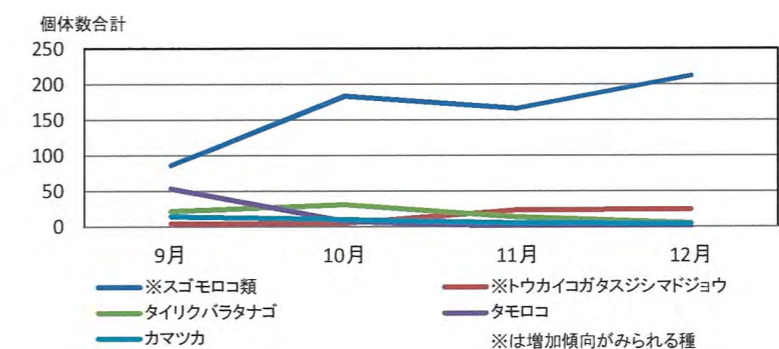
ヌートリア



ヌートリアは南米大陸原産のネズ
ミの仲間、農作物への被害も多い
ことから特定外来生物に指定されて
います。川をスイスイと泳いでる姿
が、時々カワウソと間違えられます
が、それは間違いです。家下川でも
朝、夕に泳いでいる姿をよくみかけ
ます。寒いところは苦手、あまり
に寒いと凍死してしまうようです。

【酒井博嗣】

表 調査結果概略(上:増減が明確な種類, 下:傾向が掴めない種類)



サカナたちのマス利用

一昨年、家下川にそって
流れる西大排水路に、深み
(マス)を設置した。
マスは冬季に魚たちの越
冬場として、利用されてい
る様子がみられる。この時期
のマスを上から見ると、黒
い塊となった魚の集団が一
つの生き物のように、うご
めいている。現在、調査に

より、状況を詳細に把握し
ている。途中経過であるが、
報告したい。
調査は月に1回(9月、
12月)で、サデ網を地引網
のよう使い、マスの中を3
回曳いて、魚類を採集した。
採集された魚類は種類と個
体数を記録し、調査後に放
流した。

調査の結果は私の期待に
沿うものではなかった。ほ
ぼ全ての魚種で冬季に向け
て、増加傾向が見られるも
のと考えていたためであ
る。想定通り、スゴモロコ
類などで増加したが、タモ
ロコのように減少した種類
もみられた。また、昨年の
2月ごろにはコイやフナの
群れが確かめられていた
が、その後は、10月に多数
確認されたきりである。年
次変化により、冬眠に利用
する魚が違ってくるかもしれ
ない。今後の動向が楽しみ
だ。

【市川久祥】



小魚の越冬に利用されるマ
ス。ただ、陽のいい日には、魚
も群れになり、マスから外出し
ている。

家下川
リバーキーパースの
本気で調査隊!

コンクリートの川底では生きられない 砂底が好きなの魚たち

「ついついコンクリートの川ではダメなの？」
川底をのぞきながら、魚の目線で考えてみよう。



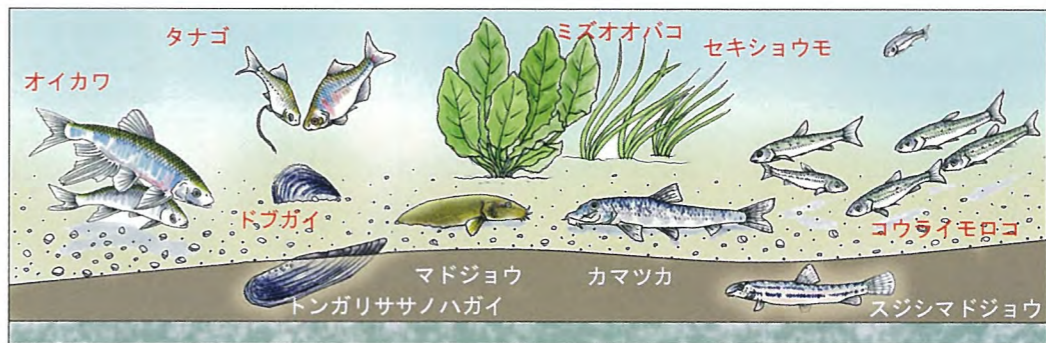
スナモグリ(別名があるように、カマツカは砂に潜るのが大好きなんだ。)



コウホネ、アサザ、ミズオオバコなど、今ある希少植物も、土がなければ絶滅するよ。



砂の中に産卵するオイカワ(ハエ)。産卵場所があつてこそ、魚は世代交代ができる。



砂泥の中にいた赤虫(ユスリカの幼虫)。川底の砂泥が魚のエサを生み出している。



ドジョウやコウライモロコ、カマツカなどの幼魚は、砂に潜って寒い冬を越すんだ。



水面を泳ぐことで有名なメダカも、砂泥に積もった落ち葉の下で冬を越しているよ。



コンクリートむき出しの川底では、ドブガイやイシガイのよう二枚貝は死滅する。

スッポンは砂底がだいすき!
…自然な水辺も必要…

愛知学泉大学教授
矢部 隆



水路で昨年11月18日に見つかったこの夏生まれのスッポンの赤ちゃん。

家下川近くの水路に昨夏孵化したばかりのニホンスッポン(以下スッポン)がいました。スッポンは怖がり、日中は水底の砂に潜って隠れていることが多いので、砂や土が溜まった自然の水底を川や水路に増やしてあげたいものです。家下川水系の多くはコンクリートやブロックで護岸されて、この赤ちゃんスッポンのお母さんは、卵を産むために土手の上に登るのが大変だったことでしょう。カメたちがふつうに産むのは、直径2cmくらいの丸い卵から孵化した写真の赤ちゃんスッポンは体重が5gほどですが、家下川が健康に育つようになれば、7kg以上になるかも知れません。



二枚貝にしか産卵できないタナゴ。二枚貝が絶滅すれば当然、タナゴも生きられない。

果たして、この川の砂場を魚たちがどう使うのか? 近い春が楽しみである。

【阿部夏丸】

家下川近くの水辺に昨夏孵化したばかりのニホンスッポン(以下スッポン)がいました。スッポンは怖がり、日中は水底の砂に潜って隠れていることが多いので、砂や土が溜まった自然の水底を川や水路に増やしてあげたいものです。家下川水系の多くはコンクリートやブロックで護岸されて、この赤ちゃんスッポンのお母さんは、卵を産むために土手の上に登るのが大変だったことでしょう。カメたちがふつうに産むのは、直径2cmくらいの丸い卵から孵化した写真の赤ちゃんスッポンは体重が5gほどですが、家下川が健康に育つようになれば、7kg以上になるかも知れません。



体重6.2kgの大型スッポンと私。最大記録はなんと7.3kg!

《キッズ★アイ 家下川たんけん隊》

家下川がふるさとになる

一番大切なのは、自然の中で真剣に遊ぶこと



子どもより真剣に魚とりをする大人たち。こんな姿を見ることも、子どもには必要です。



子育て支援グループ「キッズプランナー」では、毎年夏に「家下川たんけん隊」というイベントを行っています。これは、親子で楽しく川遊びをすること

で、地元の自然を五感で感じてもらう、親子で共有しようという会です。平成18年から始め、全部で10回ほど行ってきました。「もう10回も行ってきただ

なあ」と思い、過去の名簿を引っ張り出してみました。これまでの参加者を数えてみると・・・なんと！合計1090人。 私たちは、こんなにも多くの川好きの人たちと出会い、川遊びや魚とりをしてきたんだなあと、感慨無量。家下川の素晴らしさを知ってもらえたことを嬉しく思いました。



親子が川に入って遊びだすと、家下川の景色がぱっと明るくなります。このひとときに、どれだけの思い出が生まれているか、想像するだけで楽しくなりませんか?

この会の良さは、子どもが夢中で遊ぶのはもちろんのこと、大人も真剣に遊ぶところ。それが証拠に写真をとってもカメラ目線はありません。みんな川の中のぞき込み、食い入るような目で生き物を探し続けているのです。難しい川や魚の知識より、まずは親



ちびっ子たんけんキッズ。初めての川遊びに、親も子も夢中です。

が本気で遊ぶこと。真剣で楽しそうな親の顔を間近で見ると、子どもにとっても、とても大切なことだと思えます。 地元を流れる家下川で、親が遊び、子が遊び、やがては、大人になった子どもがまた遊ぶ。そんな大きな時間の中で、家下川がみんなの心ふるさとになっていくといいですね。

【有我都】

ぽんつく博物館

チンカラ

子どもの頃、大人がチンカラを使い、たくさんの魚を捕るところを見ました。チンカラというのは、透明なテグス(糸)を使った長い帯状のアミで、正しくは刺し網(さしあみ)と呼ぶようです。

使い方は、川幅いっぱいアミを張り、石を投げたり、竹の棒で水面を叩いて魚を脅します。すると、魚は逃げまどい、チンカラに引っかかるというわけです。

【草下正彦】



こんなので、いきました！ 家下川には、いろんな魚がいるんだよ

家下川の生きものの図鑑

川底に潜む魚たち

魚には、石に産卵したり、石の下に生息するものがあります。今回は、石を揺すったり、ひっくり返したりして、アミの中に魚を追い出してみました。
【梅本 佳紀】



ウナギ

屋は石の隙間や泥に潜み、夜活動します。海で産卵することは有名ですが、家下川にウナギがいることはあまり知られていません。



モツゴ

おちよぼ口であることから、クチボソとも呼ばれます。卵は粘着性で、石の表面に1000粒以上も産卵します。



ヨシノボリ

ハゼの仲間で、愛嬌のある目玉と吸盤状の腹ビレが特徴です。石の下に穴を掘り、天井部に産卵、その後、雄が卵を守ります。

Check! 外来生物

タイリクバラタナゴ



中国大陸原産の魚で、名前の通り産卵期のオスは美しいバラ色になります。家下川には、かつて数種のタナゴが生息していましたが、現在では本種しか見ることができません。外来魚にはマイナスのイメージがつきまといますが、この魚の生息は、タナゴ類の産卵に必要な二枚貝がまだいることの証拠。ある意味、明るい話題でもあります。
【酒井 博嗣】



家下川 リバーキーパーズの本気で調査隊!

「調査」を考えてみよう

私たちは、生き物を増やすための活動をしています。そのため、その行為が魚や他の生き物に、どれだけの影響を与えたかをできるだけ正しく知らなくてはなりません。そこで生き物の増減を調べるための「調査」を行なっています。では、調査について考えてみましょう。調査の方法は目的（何を知りたいか？）により、異なります。たとえば、川にどんな魚がいるのかを調べるには、こんな方法があります。

①直接観察する（網で捕まえる）
②目の細かい網で捕る（メダカや稚魚）
③セルピンで捕獲する（逃げ足の速いオイカワなど）
他にも、定置網、はえなわ、投網など、いろいろな方法があります。全て行うのは大変ですが、数多くの手段を用い、数多くの魚を捕獲した方が、より正確な調査結果が得られます。

棲みかを移動するからです。そこで私たちは、調査場所を定め、引き網を用いた同じ漁法で、毎月1回、朝7時と時間を決めて調査を行なっています。そして、捕れた魚の種類ごとにすべて数え、比較することにより、増減を調べます。このように、魚を調べる条件をできるだけ同じにすることがミソとなります。
【市川 久祥】



調査道具 主に大型のさで網、たも、水温計、バケツ数個を使用する。ウェーダー（胴長靴）は必需品。



調査風景 ①ゆっくりと網を引き、魚を捕まえる。これを3回行う。②捕れた魚の数を種類ごとに調べる。夏から秋は数が多い上、稚魚も多いので大変な作業。③調査結果を記録し、データ化する。



NO.03
2013. 3月発行
発行・問い合わせ
Yashitagawa.rk@gmail.com

目次

- ① コンクリート水路に変化
- ② 西大排水路にマスを設置
- ③ 見に来て！ 柳川瀬水族館 ぼんつく博物館 モリ
- ④ 外来生物・タイリクバラタナゴ 調査方法をご紹介します

魚のためにコンクリート剥がし



榊塚東町のコンクリート水路に誕生した淵。春になり水が温めば多くの小魚があつまるとは。

豊田市矢作川研究所が 榊塚東町の水路で実験
豊田上郷地区榊塚東町の農業用排水路（西大排水路）管理者は豊田市）で1月に、底のコンクリートを一部剥がす工事が行われた。実施したのは豊田市矢作川研究所。平坦で浅いコンクリート水路に砂底の深場をつくり、小魚の生息環境がどのように改善される

かを見る実験だ。2年前の春にも同じ水路の上流で第一弾の実験を行い、完成直後から驚くほど多くの小魚がその深場を利用した実績がある。今回の第二弾は、コンクリートを剥がす面積を約5倍（12m×7.5m）に広げて行われた。水路の平均水深は冬季には5cm程しかないが、誕生した深場の水深は30〜40cm。小魚の隠れ家となり、越冬場所にもなるはずだ。底に砂利や砂を敷き、部分的になだらかな浜にしてあるのも、すべて生き物への配慮だ。水路の強度を考えたコンクリートを剥がしたのには、矢作川研究所の内田良平さん（41）。もともとはコンクリート水路の設計をしていた技術者だというから面白い。内田さんは「今回の第二弾は水路幅の広い

場所を規模を広げての実験です。底の地形に変化をつける工夫もしてみました。これが今後、川の流れによってどのように形づくられていくか楽しみです」と話してくれた。
【新見 克也】

自然な川底が『命』を生み出す

豊田市矢作川研究所 内田 良平

平成22年春、増水時に産卵のために遡上したコイが、減水後、背びれを出して死んでいくという無残な光景を目の当たりにしました。この西大排水路の普段の水位は浅く、魚が避難する深みが全くなのです。そこで翌年の23年5月、川底のコンクリート（6m×3m）をはがし、魚の避難場所として、水深40cm程のマスを設置しました。川底は土のままです。年間を通



浅い水路で干からびていくコイ。均一な水深が生み出した悲劇。

して観察してみると、コイに限らず、多種類の魚が、ここに棲みつき、産卵や越冬をするのが分かりました。そして、今年の1月。前

回よりも300m下流に、新しいマス（10m×7.5m）を設置しました。今回のポイントは、左岸の水路を土と川砂でならかな斜面にしたことです。これが水際の植物や生物の生息にどのように影響を及ぼすかを、我々だけでなく、地域の皆さんと一緒に観察したいと思っています。今後は、この試みで得た生きたデータを他の地域の水路工事にも生かし、生物が棲みやすい川づくりを提案していこうと思います。

家下川新聞は 広告を募集しています
yashitagawa.rk@gmail.com

水棲生物の調査・イベントは
株式会社 とと・PLANNING
生物観察、それに属するイベントなど、是非、ご連絡ください！
ビオトープの計画、維持などのご相談にもります。
担当：市川 Ichikawa@totopla.com

コンクリート水路に大きな変化

マスの仕組みと効果を検証

平成23年に作られた第1弾のマスは、魚の避難場所になるばかりでなく、魚たちの喜び工夫が山ほど盛り込まれていた。



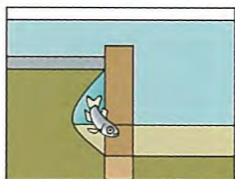
設置後、数週間で集まった小魚の数は1000匹を超える。

10センチの厚さで砂を敷き、砂底を利用するドジョウやカマツ、二枚貝の生息場所を確保。

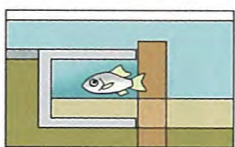
ヨシノボリなど、石の隙間が好きな魚のための工夫。夏にはこの石に、モツゴが産卵をした。

U字溝を寝かせて作ったウロには、コイやナマスなどの大型魚も隠れている。

さまざまな小技



クイの内側には隙間があり、モロコやフナなどの小魚が隠れることができる。



U字溝を寝かせて作ったウロには、コイやナマスなどの大型魚も隠れている。



マスの完成から約半年後、リバーキーパーズ活動で、かいほり調査を行いました。採集時間は45分間、主に手網をつかって魚を採集し、その種類と個体数を記録しました。

その結果が表1(左中)です。なんと、45分間で採集された魚は全16種類、4224匹にのぼりました。

魚であふれかえったマスの中



マスの周囲を土のうで囲い、水中ポンプで水を抜いていく。アミを構えるのは、参加した子どもたち。現れた魚の数に大人たちも歓声を上げた。

グループ	種	産卵場所	体長範囲(cm)	個体数(尾)	割合(%)
コイ・フナ類	コイ	水草	3~8	350	8.29
	フナ類	水草	2.5~6	580	13.73
オイカワ類	オイカワ	砂泥	2~8	100	2.37
	ドジョウ類	泥	2~8	3	0.07
モロコ類	スジマドジョウ	砂泥	1.5~3	50	1.18
	タモロコ	水草	3~5	105	2.49
カマツカ類	モツゴ	水草	2~6	850	20.12
	ニゴイ	砂泥	5~7	8	0.19
ヨシノボリ類	コウライモロコ	砂泥	6~9	50	1.18
	カワヨシノボリ	砂泥	2~5	1500	35.51
メダカ類	メダカ	水草	3.5	1	0.02
	タイリクバラタナゴ	水草	1.5~2	15	0.36
タナゴ類	メダカ	水草	1.5~2	15	0.36
	タイリクバラタナゴ	水草	1.5~3	600	14.20
大型肉食魚類	ウナギ	海	未計測	1	0.02
	ナマス	砂泥	16~20	6	0.14
	オオクチバス	砂泥	10~15	5	0.12
合計	16種			4224	100



この状態で、環境を整えば、生きものは増える実感。砂の中からは、生まれたばかりのドジョウの仲間が多数捕獲された。

第3回 魚の棲む水路を作ろう計画 平成23年11月

《キッズ★アイ 家下川たんけん隊》

魚と親子の癒しの時間

川に入れない冬の間も、水族館の魚たちに子どもは夢中。魚の動きを追いかけるその目は、きらきらと光っている。

ぽんつ君



私の勤める柳川瀬子どもつどいの広場の玄関には、大きな水槽があります。名づけて「柳川瀬水族館」。夏に「探検キッズ」と題して、親子で家下川や承水溝で川遊びを行い、そのときに捕まえた魚を、水槽で飼っているのです。

私が水槽に近づくと魚は水面で口をパクパクさせ、「エサをちょうだい」と集まってきます。どうです、かわいいでしょう。夏はもちろんのこと、冬の間も水槽の魚は元気一杯。広場に遊びに来る子どもたちの人気ものです。また、子どもだけでなく、大人たちもついつい水槽の前で足を止め、嬉しそうに覗き込んでいます。

さて、この水族館にどんな魚がいるかというと…。オイカワ、タモロコ、コウライモロコ、コイ、フナ、タイリクバラタナゴ…。もちろん、メダカやザリガニも住んでいます。カラフルな金魚や熱帯魚と違い、色も形も「地味」な魚たちですが、子どもも大人も、そんな家下川の魚たちが大好きです。赤ちゃんは覚えての言葉を使って「とと、ねんね」と、およぐね〜とお話しをしてくれまます。



水槽にいるのは、魚もザリガニも、水草や石ころまで家下川のもの。

「まだ遊びたい。帰りたいな〜い」と、泣いていた男の子も、最後には水槽の魚たちに「ばいばい! また来るね〜!」と言って、笑顔で帰っていきます。



夏はタライの池でザリガニ二釣りを楽しんでいます。

「子どもの頃、近くの川で、泥だらけになって魚とりをしたんですよ」と、かわいい二十代のお母さんは、懐かしそうに子ども時代の思い出を話してくれました。玄関にあるほんの少しの空間ですが、この柳川瀬水族館は、親子の癒しの場になっています。家下川の魚たちと親子との素敵な時間が毎日、流れているのです。【有我都】

ぽんつく博物館

モリ(ヤス)

「昭和20〜30年代かな、モリは上野や北野の鍛冶屋で作ってもらったよ。田舟の上から、大きなコイやナマズをよく突いたもんさ」突いた魚は、当然、傷付くのですが「狙った魚以外を傷つけない」という意味では、モリは自然にやさしい漁法かもしれません。捕った魚を食べるといふ文化が無くなるにつれ、この遊びは衰退したようです。【阿部 夏丸】



家下川と矢作川の合流点を検証

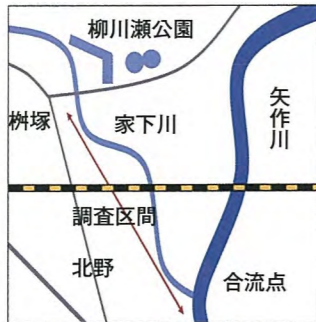


遊んでいるようにしか見えなくて結構。しかもっ面していったって、川も自然もよくはならないんだから。

矢作川本流と家下川は、ちゃんと繋がってるの？
6月上旬、われわれ家下川リバーキーパーズは家下川の下流域で生物相調査を行った。岡崎市北野町から合流点へ入り、そこから矢作川の堤防（水門）を目指すという段取りだ。この区間は道もなく、人目に触れることは少ない。



写真① 問題の矢板。魚の遡上はできるけど、ゴミは引っこかかるし景観が悪いよね。



「へえ、こうやって本流と繋がっていったんだ」と、合流点を初めて見たメンバーがつぶやいた。
その昔、家下川と矢作川は現在より800メートルほど下流、日名橋の上流で合流していた。当時は矢作川の河床が高く、増水時に



写真② 家下川から矢作川を望む。ここに立つと家下川は矢作川の一部だと、つくづく感じることができる。

水が流れなかったためだ。しかし、今では矢作川の河床が数メートルも下がり、増水時の逆流もないと国交省は判断。家下川をダイレクトに本流へ繋げたわけだ。
「昔はさ、あの800メートルに魚が一杯いたんだ。大水の時には矢作川の魚がそこへ非難し、そのまま家下川に遡上してきた」と、昔を知るメンバーがいう。40年前には増水のたびに、直径数メートルもある魚の塊がいくつも家下川や長池に遡上していたらしい。

この後、メンバーは魚を捕りながら家下川を上流へ。「川底には土砂もたまり、草も茂っていい感じ。しかし、両岸は5メートルもあるコンクリートの壁だ。これじゃ、河川の生きものが横断できないよなあ」

(調査結果は2面へ)



NO.04
2013. 7月発行
発行・問い合わせ
家下川リバーキーパーズ
Yashitagawa.rk@gmail.com

- 目次
- ② 家下川下流を徹底調査
 - ③ あみに入った家下川の魚たち
 - ④ ザリガニ釣りがおもしろい
 - ⑤ ほんつく博物館 カニカゴ
 - ⑥ 外来生物・オオキンケイギク
 - ⑦ 魚の増える季節がやってきた

家下川リバーキーパーズの活動を応援します

内科・神経科
稲垣医院

〒470-1218
豊田市上郷町市場83-3
TEL: 0565-21-0003

親切・安心・丁寧なサービス
お客様とともに創造する良質なこだわり

planning
designing
printing
...for all customers

KAMIGO 株式会社上郷印刷
〒470-1218 豊田市上郷町2丁目23-12
TEL(0565)21-0203(代) FAX(0565)21-2253

Check! 外来生物 オオキンケイギク



北米原産のキク科の植物で、近年家下川の堤防でも増加しています。黄色い美しい花を咲かすため、かつては園芸種として利用されていましたが、在来の植物を駆逐する恐れがあるため、法律で栽培や移動が厳しく規制されています。本種に限らず観賞目的で植物を野外に植えることは、自然に思わぬ悪影響を及ぼすことが多く、注意が必要です。【酒井博嗣】



モクズガニ
渓流域にもいる川ガニですが、親は晩秋、海へと下り産卵します。そして春、爪ほどの稚蟹が川へ。有名な「上海蟹」と近い種で美味です。



セイゴ
大きくなると「スズキ」と呼ばれる出世魚です。基本的には海の魚ですが、矢作川は水源ダムの下流まで、まれに家下川へも上ってきます。

家下川の生きもの図鑑

海から来る魚たち
ウナギが海から川へとやってくることは知られていますが、そのような生きものは、他にもいます。海から矢作川を上り、家下川へとやってきた生き物を紹介します。

【梅本佳紀】



アユ
秋に孵化した仔魚は川を下り、冬を海で過ごします。家下川はエサとなる藻類が付着する石が少ないので、大きく育つことはありません。



家下川リバーキーパーズの 本気で調査隊!

魚の増える季節がやって来た!

今、家下川や田んぼの脇の水路には、魚の子どもたちが溢れかえっています。草陰にあみを当てガサゴンとあざると、コイ、フナ、ドジョウ、タモロコなど、頭でっかちでカワイイ幼魚がたくさんアミに入ります。
さて、そんな幼魚はどこからやってくるのでしょうか。時間を巻き戻し、ひと月前（5〜6月）を見てみましょう。川には水深に見合わないような大きな魚がたくさん泳いでいました。さらにウキシ



産卵のためなら、こんなに大きなコイが浅い水路までやってくる。



上:スジシマドジョウ、下:ドジョウ



赤い○の中にあるのが、産みつけられたばかりのコイの卵。

バをよく見ると、小さな卵がついていました。コイが下流から泳いできて産卵したのです。2週間後、今度はフナが同じ場所で産卵を行いました。また、メダカもウキシバに卵を産んでいます。三種は体長の異なる魚ですが、卵のサイズは不思議と同じくらいです。大型のコイやフナは産卵後、



再び下流の深みに戻るので、現在、川には卵から孵った子どもばかりがいるということです。ときどき、おたまじゃくしのように見えるナマズの赤ちゃんもいます。
水中の観察は魚の生態ばかりでなく、季節や命の面白さを我々に教えてくれます。

【市川久祥】

産卵や幼魚のゆりかごとなるウキシバ。コイやフナはここに産卵をし、生まれた幼魚は外敵からの避難場所としてこの場所を使う。

大川（矢作川）とつながり、海へと注ぐ 家下川下流を徹底調査！

「見てみなくちゃ、分からない。やってみなくちゃ、分からない」これが、家下川リバーキーパーズの合言葉だ。合流点の川の健康を、あみを使って調べたぞ。

今回の調査は、投あみ、さであみ、手あみを使用し、合流点付近にどんな生きものがいるかを調べることにした。採集時間は2時間だ。まずは、投網の名人I君が魚捕りの口火を切った。「本流近くには、アユとオイカワが多いぞ」



思い思いのあみで魚を捕るメンバー。田植え時期のため白く濁るが、普段は魚が見えるくらいに澄んでいる。

これは想像通りといった風。続いて矢板のある段差の上流にあみを打つ。「大きなコイとフナだ」そして今日の方針が決定。「魚の数は薄いぞ。各自、あみをしつこく使い、色々な種類を捕まえるように」ここからが本番だ。メン



40センチもあるギンブナを手にするI君。「矢作川から上がって来たんだろうね」と推測する。

バーは、草の陰、石の下、砂の中とあらゆる場所から、あみの中へと魚を追いつ出した。最終的に捕獲した生きものは写真で記した魚のほか、カダヤシ、ナマズ、ブルール、ザリガニ、ヌマエビ、アカミミガメとヤゴ3種類。「魚だけで15種類つてのは、まあ、いいんじゃない」



家下川名物のビニールゴミは下流にもちゃんとあつた。



大きなライギョにS君は満身の喜び。でもそれ外来生物ですから。

「アユやテナガエビが捕れたのは、家下川と矢作川がちゃんと繋がっている証拠」それならゴクラクハゼだよ。これを家下川で見たのは初めて。新発見だ」感想はそれぞれだが、あみを入れたからこそ分かる事実も多かった。「秋に調査したら、さらに新しい発見があるかもね」魚は川を移動する。家下川や周囲の用水路の水辺環境を整えることは、結果として矢作川の魚たちを守ることに繋がろう。



生まれて初めてスッポンを手にしたのはK君。微妙にその顔がびびっててさ。

【阿部夏丸】

あみに入った家下川の魚たち

- アユ** 溯上したアユは家下川を通り農業水路へも入る。
- スジシマドジョウ** 上流から下ってきたのかもね？
- メダカ** 本流にもいるが、産卵のためには家下川へも上る。
- コイ** 本流のコイは、強い流れのために鍛えられてヒレが大きい。
- テナガエビ** 本流は多いが、家下川で目にするのは稀だ。
- ゴクラクハゼ** 基本的には汽水域の魚。家下川で捕れた。
- オイカワ(ハエ)** オスはアカカトと呼ぶ。鱗は銀に光る。
- モズガニ** 石に卵を産むため、石の多い水域に多い。
- モズガニ** 海で生まれ、爪ほどに育つと川へ上る。
- カワヨシノボリ** ハゼに似た魚。小さくて愛嬌がある。
- タイリクバラタナゴ** これが二枚貝がある証拠。
- タモロコの稚魚** 強い魚だが、豊田市全体では減少中。

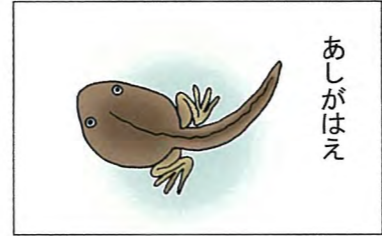
《キッズ★アイ》

ザリガニ釣りがおもしろい

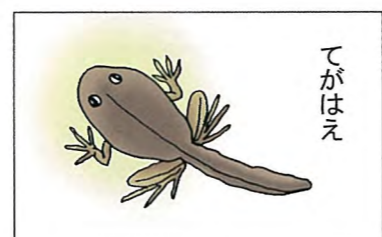
昨年のタライの池からグレードアップ！ ついにザリガニの釣れる「にっこ池」が誕生しました！ 連日大にぎわいです。



ぽんつ君



あしがはえ



てがはえ



やがて尾が切れて



とどのつまりにはらがでる

今年のゴールデンウィークに、私の職場である柳川瀬子どもつどいの広場に、「にっこ池」ができました。この「にっこ池」は、子どもたちに大人気！なぜかという・・・

ザリガニがたくさんいるからです。「ザリガニ釣りしよう！」「今日も、ぜったいに大きい釣るの！」と、朝から目をキラキラとさせてザリガニ釣りを楽しんで遊びにきます。50センチほどの竹の竿にタコ糸を結び、その先にエサのスルメイカをつけます。そして、親子で肩を並べてザリガニを釣るので

驚くことに、たった1歳の子どもでも、すごい集中力でザリガニを釣ろうとします。その根気の良さにお父さんやお母さんも付き合っつて・・・というよりも、親のほうがより真剣、本気になるから、おもしろいんですよね。これがザリガニ釣りの魅力なのでしょう。私の息子たちが園児だったほんの10数年前は、近所の水辺でザリガニ釣りが楽しめました。ところが、残念なことに、年々こうし

驚くことに、たった1歳の子どもでも、すごい集中力でザリガニを釣ろうとします。その根気の良さにお父さんやお母さんも付き合っつて・・・というよりも、親のほうがより真剣、本気になるから、おもしろいんですよね。これがザリガニ釣りの魅力なのでしょう。私の息子たちが園児だったほんの10数年前は、近所の水辺でザリガニ釣りが楽しめました。ところが、残念なことに、年々こうし



雨の日もカッパを着てザリガニ釣り。「かあちゃん、ザリガニつりしよ〜。」

家下川新聞は
広告を募集しています
yashitagawa.rk@gmail.com

ぽんつく博物館

カニカゴ

文字どおりカニを捕るために作られた道具です。「川でカニが？」と思われる方もみえると思います。が、モズガニと呼ばれるカニが矢作川流域にはたくさんいます。これは高級中華食材の上海ガニの仲間でももちろん美味。家下川でもその姿を見ることが出来ます。カゴの中にエサとなる魚のアラを入れ、一晩川に浸けておけば翌朝には何匹ものカニが入ります。毎年、家下川にカニカゴを浸けていますが、実際に捕れるのは、カニの他、ナ

マズやライギョ、テナガエビなど。特によく捕れるのはスッポンです。ただし、カメの仲間は呼吸ができないと溺れて死んでしまうので、カゴを仕掛けるときはカゴの一部を水面より上に出し、入ったカメが呼吸できるようにしましょう。

【阿部 夏丸】